

吉野大臣宮城県訪問ぶら下がり会見録

(平成29年11月26日(日) 16:10～16:14 於) 仙台国際センター)

1. 発言要旨

今日は、仙台市と名取市と亘理町を訪問しました。

仙台の井土生産組合では、「仙台井土ねぎ」というものを栽培しておりますので、ここはグローバルGAPをとっておりますので、私も井土ねぎのスープを頂きましたけど、大変おいしいもので、これはすごいネギだなと、こう思いました。

名取市の閑上地区では、災害公営住宅や小学校と中学校の一貫教育の整備などが進んでおります。

そして、お昼には、「ゆりあげ港朝市」を訪問しましたが、すごい人でした。日曜日しかやっていないんですけど、秋田県とか山形県からも出店をしていただいて、大勢の人が訪れておりました。

また、亘理町では、「仙台傾聴の会」を訪問しました。よく相手の話を聞くという、そういう取組を見てまいりました。練習として、一人が話す役、一人が聞き役、そして、もう一人が評価をするという、そういう訓練、練習をしていたんですけど、私もやらせていただきました。人の話を聞くということが、いかに難しいかということを経験させていただきました。

そして、最後にここ、「防災推進国民大会2017」に出席をさせていただいて、外国の方、日本の方のいろんなお話を聞いて、御挨拶等もさせていただいたところです。

以上です。

2. 質疑応答

(問) 「ぼうさいこくたい」と併せて、この東日本大震災の被災地、仙台で世界防災フォーラムが初開催となりましたけれども、この意義について、復興大臣としてどう思われますか。

(答) 世界防災フォーラムと「ぼうさいこくたい」、あと、防災産業展、この三つを同時開催するという事は、本当にいいことだと思います。

そして、防災意識がこの被災地、仙台から全世界に向けて発信できることは、すばらしいことだなというふうに思います。

(問) 「ぼうさいこくたい」は、昨年に続いて2回目ですけれども、「ぼうさいこくたい」に関しては、今後どのような意義付けで行っていくかのお考えでしょうか。

(答) 去年は東京で、今回2回目は仙台で、3回目はまた多分東京かどこかでやられると思いますが、やはり必ず災害は起きます。災害が起きる度ごとに、今までの経験をゼロにして、もう一回初め

から復興をやっていくということでは知恵が出ません。

いろいろな災害を想定して、こういう場合にはこういうふうにしていくという形で、ある意味の心構え、準備をしていくということが「ぼうさいこくたい」の一番の目的だというふうに思います。これからも全世界の災害をいかに復旧してきたかというところも含めて、いろいろな知見を発表していただきたい、このように思います。

(以 上)